

Title	対称的な社会関係における行為指示 : ニュータウン自治会での作業場面から見る
Author(s)	牧野, 由紀子
Citation	大阪大学, 2009, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/1250
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

【34】

氏名	まきのゆきこ 牧野由紀子
博士の専攻分野の名称	博士（文学）
学位記番号	第 22615 号
学位授与年月日	平成21年3月24日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 文学研究科文化表現論専攻
学位論文名	対称的な社会関係における行為指示—ニュータウン自治会での作業場面から見る—
論文審査委員	(主査) 教授 真田 信治 (副査) 准教授 渋谷 勝己 教授 青木 直子

論文内容の要旨

本論文は、上司—部下関係のように明らかな上下関係を基盤とする社会関係を「非対称的な関係」、一方、基本的に対等な関係を基盤とする社会関係を「対称的な関係」と定義し、あるニュータウン自治会の作業場面での自然会話から、対称的な関係における行為指示（聞き手に特定の行動をするよう要求すること）の特徴を明らかにすることを目的としたものである。

本論文は8章から成っている。400字詰め原稿用紙にして514枚の分量である。

1章（序論）では行為指示の定義をおこなうとともに、これまでの行為指示研究を概観し、本研究の位置づけを述べている。また、研究対象として当該自治会の活動を選定した理由、及びそれを対称的であると認定した理由を述べている。2章では調査概要として、具体的な調査方法と文字化について述べている。3章では分析の枠組みとして、行為指示表現の分類をおこなっている。4章から7章が本論である。4章から6章までは自治会長

(女性)の行為指示発話に注目し、4章ではスタイルの選択、5章では直接形式、6章では間接表現を取り上げ、行為指示場面における形式の選択とそのストラテジーに焦点を当てて分析と考察をおこなっている。7章では視点を変えて、自治会メンバーの行動に焦点を移した分析をしている。8章(むすび)では本データの行為指示の特徴をまとめるとともに、先行研究における非対称的な関係での命令指示の特徴と比較しつつ、対称的な関係での行為指示の特徴を考察している。

本論文において、対称的な関係での行為指示の特徴として捉えたのは、主として以下の点である。

職場における女性管理職の行為指示という、非対称的な関係での行為指示をあつかった研究の成果と比較し、対称的な関係での行為指示の特徴を考察した結果、権力が与えられている管理職と根本的に異なり、対称的な関係では役割の権限に基づく「力」をどのように有効に使用するかが重要であり、直接形式がより多用されている一方、その使用に際しては細心の注意が払われていることがわかった。また、対称性を維持するための配慮として、スタイル切換えや補助的ムーブの使用、リラックス発話などのストラテジーが、非対称的な関係における以上にきめ細かくおこなわれている。特に、反論後は「役割」としての発話が消え、一個人としての合議制にシフトされるなど、対称性の維持が最終的には最重視されていると思われる。また、対称的な関係ではメンバーも「役割」に応じた行動が求められ、一人一人が「対称的な関係の仲間」としてふるまうことでそうした社会関係が構築されていくと考えられる。対称的な関係で行為指示を成り立たせているのは「力」ではなく、こうした相互行為といえる。

論文審査の結果の要旨

本論文は、現代社会に特徴的な「対称的な社会関係」において、行為指示やそれに伴う配慮がどのようにおこなわれ、そして、それが社会関係の「対称性」とどのように関係しているのか、という点に注目し、ニュータウン自治会における具体的な作業場面での行為指示談話を詳細に分析したものである。

これまでの行為指示研究は、「依頼」研究が主流を占めており、「命令」研究は少なく、近年おこなわれているものも職場など非対称的な関係での研究に限られている。しかし、現代社会ではボランティアグループの共同作業場面など対称的な関係で命令指示がおこなわれることがしばしばある。非対称的な関係においては「わきまえ」という社会規範が行動の準拠となるが、対称的な関係ではそれとは異なった規範と配慮があると考えられる。対称的な関係で共同作業がおこなわれる際、リーダーの役割を担う人が常に意識することは、当該プロジェクトを遂行するために、命令指示を確実に達成すること、そして、メンバーとの対称的な関係性を維持すること、の2点であると思われる。しかしながら、確実に命令指示をおこなうためにはなんらかの「力」の行使が必要であり、一方、「力」

を顕示することは対称的な関係の維持にとってはマイナスとなるわけである。このように対立する要素をはらんだ命題をとともに達成することが対称的な関係での行為指示においては求められる。対称的な関係で命令指示をおこなうための「力」として機能しているのは「役割」による権限であると思われる。ただし、この「役割」関係は権力構造を伴った上司一部下関係とは異なり、あくまで一時的、流動的、互換的な関係であり、いわば臨時的な上下関係だといえる。「役割」のこうした性格が、対称的な関係での命令指示のあり方を特徴づけていると考えられる。こうした問題意識のもとに、ニュータウン自治会を対象とした本論文での調査研究がおこなわれたわけである。

本論文は一事例研究ではあるが、自然談話を扱った点、発話の連鎖に注目した点などは新たな試みであり、先行研究には見られない貴重な見解を導き出している。本論文を契機として、今後、この分野において、他の事例や非対称的な関係と比較する研究が進展するものと予想される。よって、本論文を博士(文学)の学位にふさわしいものと認定する。